



のびのび いきいき 生涯学習

『第6回都留いきいきフェスティバル2003講演会の要旨』

今回は、10月5日に行われた「都留いきいきフェスティバル」の記念講演会の要旨を掲載しますので、参考にして下さい。講師：山梨学院生涯学習センター長 黒沢惟昭氏 テーマ：「生涯学習社会と地域の役割」

◎勉強と学習の違い

勉強という言葉の由来は、無理をするということである。商品の値引きなどに「勉強する」という言い方がある。学習は本来楽しく学ぶものであるが、日本では勉強が学習の意味で使われてきた。それは明治時代、先進国に早く追いつこうという意識の現れである。そのため画一化され、軍隊的な方法が用いられた。男子学生服の詰襟は軍服の形であり、女子の制服であるセーラー服は海軍の水兵服である。校舎も兵舎のようである。

明治5年(1872)の学制の発足当時、学校は人気がなかった。学校へ行くということは、家の労働力を取られることであり、学校への放火事件も起こるほどであった。

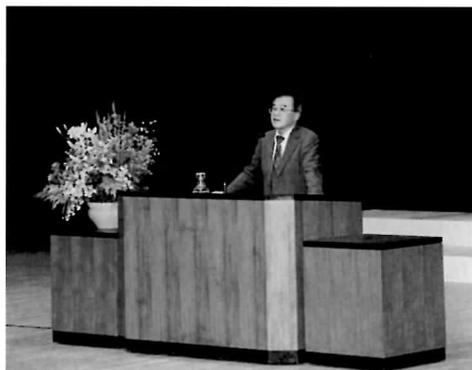
◎学校の輝きとその後

やがて学校教育が理解され就学率が高まってきた。明治大正昭和にかけて、立身出世のためには学校に行かなければならないという風潮になった。戦後においても教育の平等主義によってさらに高められた。しかし、学習の面からみれば、学校の強制力が強く、楽しい学習が苦しい勉強になっていた。

やがて、1970年代途中から変化が生じてきた。それは高度経済成長期をすぎると、無理をするという価値を望まなくなったのである。何のために無理をするのかという目標がなくなり、勉強に耐えきれないという傾向も現れた。(7割に達する調査の例もある)

学ぶ楽しさを知るためにはどうしたらよいか。『勉強型』から『学び型』へ転換することである。

作家の村上龍のエッセイに中学3年生が神戸の小学生を殺害した神戸事件について「淋しい国の犯罪である」という表現があった。「淋しい国」とは「目標を失った国」という意味であると考えられる。それにもかかわらず、大人は子どもに目標を与えることができなかつた。大人自身に目標がなく、子ども達に目標が与えられない。そして、世代が違つて言葉が響かない。そのため、今いろいろな問題が起きている。



◎生涯学習思想の出現

明治時代から1970年代まで、国民の多くは辛抱ということができただけで、それは現在を道具として考えて、未来に備えるということである。しかし、日本が経済的には世界の頂点に達するという時代に生まれ育つた年代の人たちは、そうではなくなつてきている。1975年頃から不登校児が増加し、高校中退者も増えている。このことは『学びからの逃走』ともいわれる。

また、農業及びその後の工業中心社会から情報中心社会への変化に、教育が対応できないという問題もあつた。

このような状況の中で、真の学びの復権として生涯学習の思想が現れた。このことは1965年、ユネスコのポール・ラングランにより提唱され、世界的に広まっていった。それは学校教育プラス社会教育というだけでなく、新しい時代の人間をつくるということでもあつた。

◎生涯学習の広がり

日本では、生涯学習の思想に最も早く熱心に取り組んだのは大企業であつた。企業を勉強型から学び型に変え、みんなが学びあつた。それはタテ型の管理ではなくヨコ型の管理であり、ZD(注1)やQC(注2)の活動が活発に進められた。

1984~7年(昭和59~62年)中曽根内閣の時に生涯学習体系への移行などの教育改革を目的とした諮問機関「臨時教育審議会」を設置し、文部省(当時)だけでなく、通商産業省(当時)、大蔵省(当時)などの参加が必要とされ、内閣全体の取り組みとして、生涯学習の思想による教育改革の内容がまとめられた。

生涯学習は「教養育てられる」ことではなく「自発的に学ぶ習う」ことである。その反面、自己決定、自己責任であり、学ばない人はその人の責任である。しかし、余裕のある人は各種セミナーなどで、好きにいろいろな学習ができるが、時間的・経済的な余裕がない人たちに對する支援の手立てを考える必要がある。

◎地域における学習ネットワーク
大人と子どもとの交流の仕掛けをつくる必要がある。それは地域社会が中心にやるべきである。学校への地域の人々の参加が必要であり、一例として学校評議員制度がある。川崎市では、イタリアの学校評議員会を参考にした地域教育会議がある。スペイン、イタリアの高校では、投票権を持つ学校経営に参加している例もある。

山梨県内の各大学が連携してコンソーシアム山梨をつくる構想があり、小・中・高校もその中に含めて考えるべきである。社会教育施設、文化施設のネットワークをつくり、体験学習などを行うべきである。『学びから逃走する子ども達』のためにも、地域社会に一大ネットワークをつくるべきである。

学校間のタテの連携としては、カリキュラムの無駄を省くなど、入試等の学力を本来の学びにするために、単位の互換性や資格取得も含めた、山梨総合学園大学の夢をもっている。

失われつつある『学び』の復権のために、学校教育と社会教育の総合化を図り、生涯学習社会の実現を目指すべきである。

注1 ZD(Zero Defect. 無欠陥。工場生産で欠陥製品の皆無をめざす。

注2 QC(Quality Control. 品質管理。市場に送り出される製品やサービスの品質が、一定の許容範囲内に維持されるように、検査・評価・修正・改善などを行う経営管理法。